



平成27年9月18日(金)

国土交通省 関東地方整備局

河 川 部

鬼怒川ダム統合管理事務所

関東地方整備局 風水害対策本部は非常体制中です。

記者発表資料

鬼怒川上流ダム群(4ダム)の効果を試算しました

「平成27年9月関東・東北豪雨」により鬼怒川では、大きな水害を生じましたが、一方で、地域の方々の多大なご協力を得て、昭和32年から順次、運用を開始した鬼怒川上流の4つのダムは、約1億 m^3 の洪水を貯めて、大きなストック効果を発揮しました。

そこで、今回の出水について、ダムの効果を試算しました。

今回の試算では、4つのダムがない場合を想定し、水位や氾濫水量などを計算しています。

4つのダムがなければ、決壊地点付近で更に約30cm水位が高くなったと試算され、常総市域で溢れた水量は、約2倍の約6,200万 m^3 と試算され、被害がさらに拡大したと推定されます。

また、ダムがなければ、決壊地点付近だけでなく、ダム下流の鬼怒川全川で越水がさらに増加します。実績で最大約40 km^2 であった浸水面積は、約1.3倍の約50 km^2 になると試算されました。

<添付資料>

【別紙1】鬼怒川上流4ダムの貯水状況

【別紙2】試算結果(速報値)

【別紙3】ダムの有無による試算結果(速報値)

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、筑西市記者クラブ、宇都宮市政記者クラブ

問い合わせ先

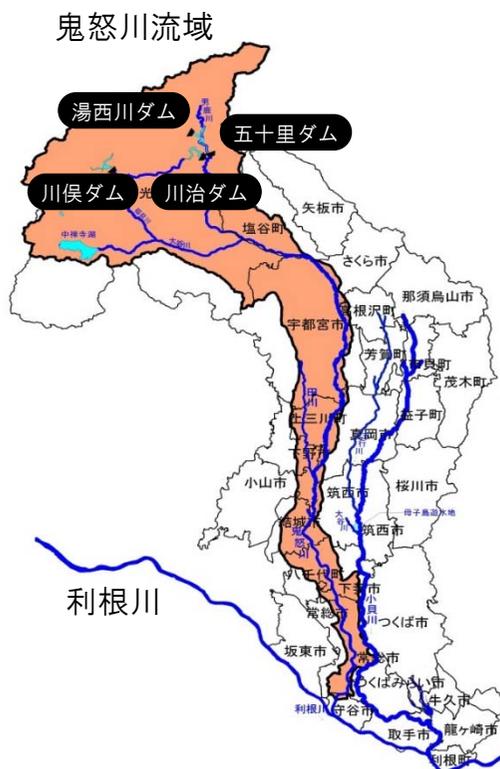
国土交通省 関東地方整備局

河川部 河川調査官 高橋 伸輔

TEL 048-600-1419(災害対策室直通)

【別紙1】鬼怒川上流4ダムの貯水状況

●国土交通省管理の鬼怒川上流の4つのダムでは、雨や下流の河川水位の状況を見ながら、できる限り洪水を貯める操作を行い、約1億^m³の洪水を貯め込みました。



※各ダムの写真は、ダム上流側から9月11日に撮影

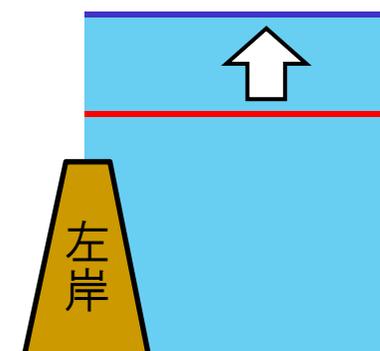
【別紙2】 試算結果(速報値)

- 今回の出水について、鬼怒川上流の4つのダムがない場合を想定し、今回の箇所以外の堤防は決壊しないと仮定して計算をしています。
- 4つのダムがなければ、決壊地点付近で更に約30cm水位が高くなったと試算されました。
- この場合、今回の氾濫により常総市域で溢れた水量は、約2倍の約6,200万 m^3 となり、被害がさらに拡大したと推定されます。
- ダムがなければ、決壊地点付近だけでなく、ダム下流の鬼怒川全川で越水がさらに増加します。その試算結果が別紙3であり、最大約40 km^2 の浸水面積が約1.3倍の約50 km^2 になると試算されました。

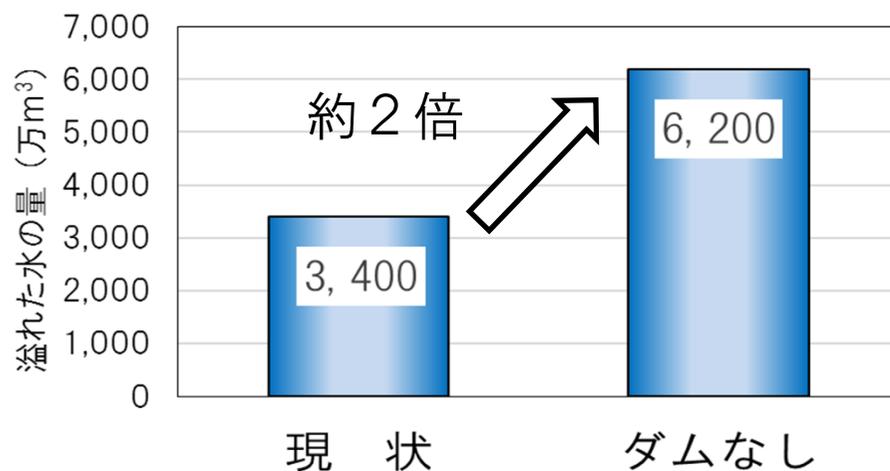
※計算では、決壊地点の上流の氾濫を見込んでいる。

◆決壊地点付近の断面イメージ図

ダムがなければ
さらに約30cm水位上昇



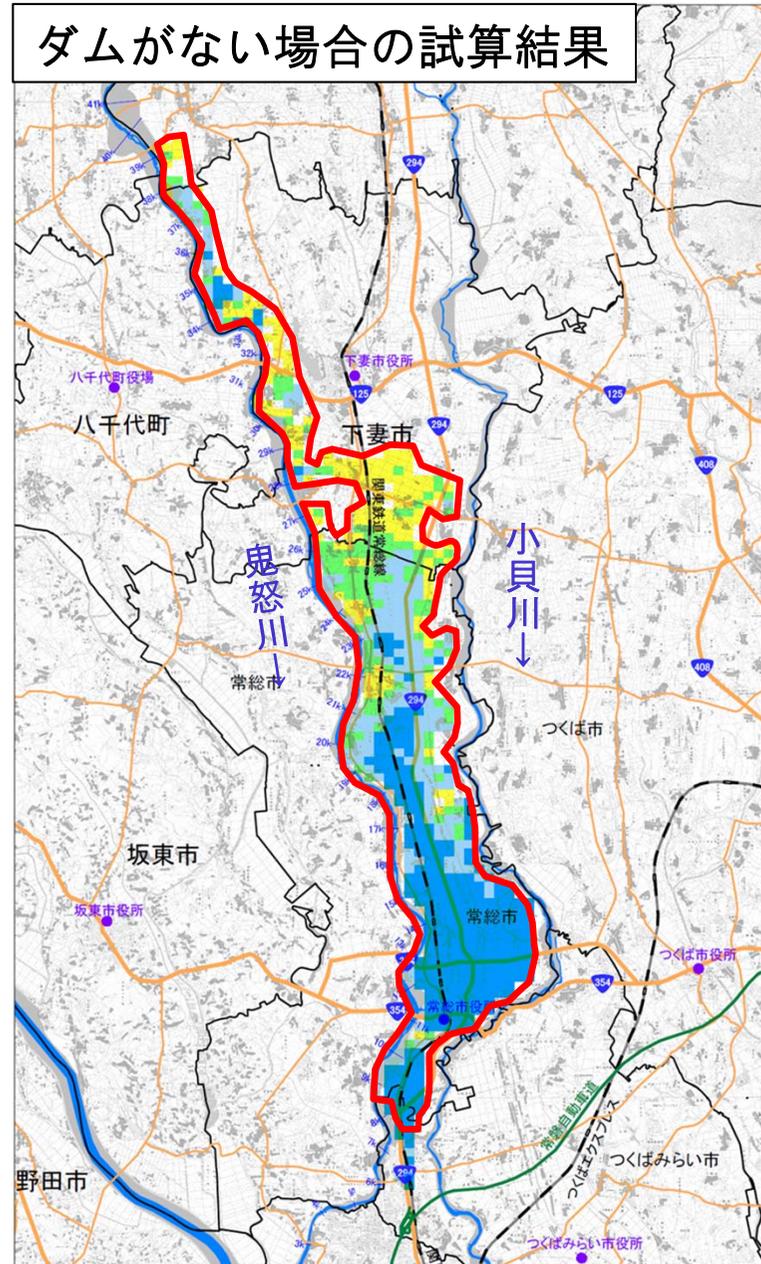
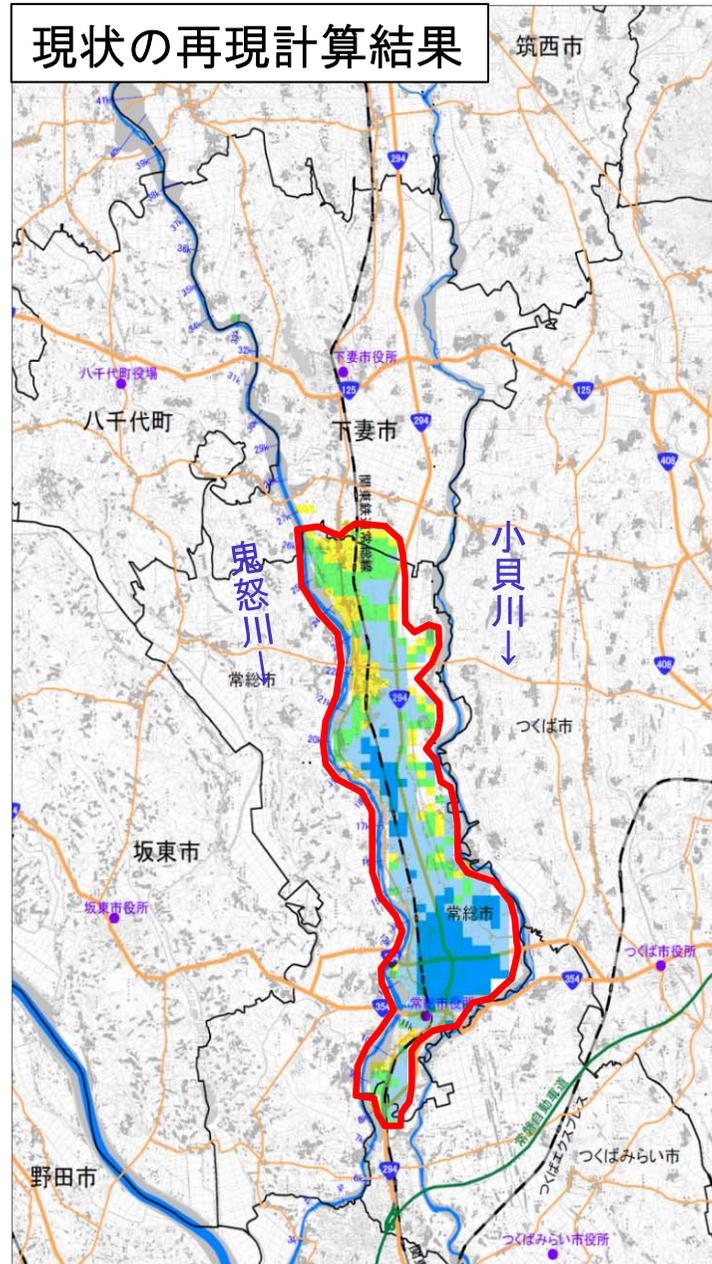
◆常総市域で溢れたと試算された水の量



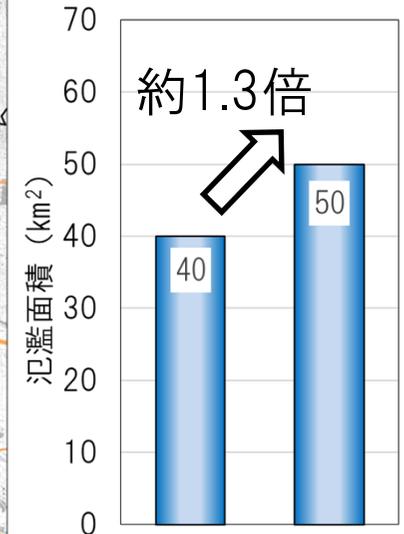
※これは速報値であり、数値等は今後変わることがあります。



【別紙3】 ダムの有無による試算結果(速報値)



◆ 氾濫面積



現状 ダムなし

※シミュレーション結果に基づくものです。
 ※計算結果に基づくものであり、実際と一致しない場合があります。

